稲作ワンポイントアドバイス（No.１）

令和７年５月２１日
JA山口県長門統括本部
長門農林水産事務所農業部

１　生育等の状況

●一部の地域では用水不足のため、田植えが遅れている地域があります。

２　今後の管理のポイント

（１）用水が不足し、田植えが遅れる場合の対策

〇田植えが遅れて苗が老化した場合は、剪葉し、箱当たり窒素0.5g程度を追肥しましょう。
※伸びきっている第２葉を、上から２分の１～３分の１程度剪葉します。
※硫安で追肥する場合は１箱当たり2.5ｇを500mlの水に溶かし、朝又は夕方の日差しが弱い時にジョウロ等で施用します。

〇穂数確保のために栽植密度を確保しましょう。（坪６０株で田植機を設定）

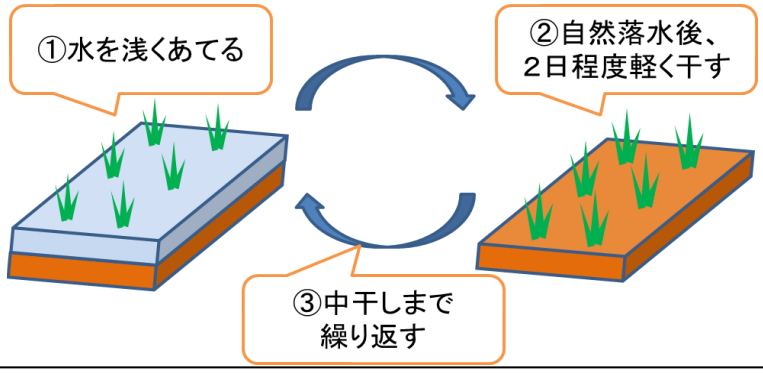
〇畦畔、水路の点検を行い、畦畔のモグラ穴を補修するなど漏水対策をしましょう。

（２）基本の水管理

！地域の用水の状況や水利ルールに基づいて管理をしてください！

【５月上旬移植「根張りを良くするため間断かん水（移植後30日頃まで）」】

移植後２０日頃から「間断かん水」を行いましょう。



【５月中旬移植】

移植後、苗が活着するまで「深水管理（水深３～５ｃｍ）」で風から稲を守りましょう。除草剤散布後７日間は止水しましょう。

その後移植２０日頃まで「浅水管理（水深１～２ｃｍ）」で、分げつ発生を促しましょう。

（３）病害虫、雑草の管理など

・補植用の苗は、いもち病の発生源になるため、速やかに処分しましょう。

・用水が確保しにくい年であるため、初中期剤が十分効いていない場合があります。とりこぼしの雑草が多いほ場では、中期除草剤などで早めの処理を行いましょう。

散布の際は使用時期（移植後日数、雑草の葉齢）や使用方法（湛水散布・落水散布等）を必ず確認してください。散布後７日間の止水期間を守りましょう。

（４）農作業安全

・暑さを避ける行動と、こまめに休憩と水分補給を行い、熱中症予防に努めましょう。



長門の水稲の病害虫発生状況、生育状況等をLINEにより発信しています。

「JA山口県　長門　米作りライン」